

# “代わる”新たな原料を開発

## 株式会社三和商会

「株式会社三和商会」バイオマス事業部長の船谷和宏ふなやかずひろさんに、同社が開発した環境に配慮した製品についてお話を伺いました。



バイオマス事業部  
セールスマネージャー 船谷和宏氏



### 株式会社三和商会

<https://f-sanwa.jp/>

所在地:坂井市三国町南本町1-2-51(本社)  
あわら市古屋石塚22-111-1(あわら支社)  
代表者:角谷 雅和氏  
事業内容:プラント設計・施工等々  
TEL 0776-82-6479(本社)  
TEL 0776-73-5502(あわら支社)

### 環境配慮素材への期待

1986(昭和61)年に設立した同社は、福井県内に4つのグループ会社を持ち、8つの事業を展開しています。その8つの事業の中で、今回注目したのがバイオマス事業です。15年前に立ち上げた同事業では当初、バイオマスプラスチックの製造機械を製造・販売していました。近年の世界的なプラスチック減量化運動にともない、バイオマスプラスチックが注目されるなか、製造機械の受注が上がっていききました。

### 新たな原料を開発

NEQAS®事業とは、従来から培ってきたバイオマス事業のノウハウを生かし、100%生分解樹脂、ポリオレフィン系樹脂にバイオマスファイバーを高充填したバイオマス樹脂を製造・販売する事業です。世界的にプラスチックの減量化が注目されること

で、主流だったトウモロコシやサトウキビ由来のバイオマスプラスチックが入手困難になり、新たな原料の開発が求められていました。

そこで同社が注目したのが「卵の殻」です。「あくまでも廃棄されるものでかつ安定供給が可能なものを探していました。そして「純国産」にもこだわりました。卵の殻の消費量は一人当たり年間300個。バイオマス度100%。身近にある存在でプラ業界では意外にも再利用率が低く、社会への訴求度が高い原料です」と船谷さん。

今年の7月1日、レジ袋・ファッション袋向けの卵の殻70%以上配合したマスターバッチ(原料のひとつ)の製造販売を開始致しました。袋原料のポリエチレンに成型時に混ぜることによって25%以



卵の殻で作った(原料)「NEQAS®BIO」と原料で作った袋

上のバイオ度ももつ袋製造も可能になるという。

### 海でも溶けるプラスチック

それ以上に同社が注目しているのは「生分解性のプラスチック」です。同社は大阪府に拠点を置く、大手化学品メーカーの株式会社ダイセルと共同開発し、今年8月3日、生分解性成型材料の「NEQAS® OCEAN(ネクアスオーシャン)」をプレスリリースしました。従来からあるポリ乳酸などの生分解性プラスチックよりも物性や成形性が優れ、海でも分解される同製品は食品容器や包装資材向けを中心に用途の開拓を進めているところだ。「従来のものは加工しにくいという大きな欠点がありました。今後はさらに物性・成形性を高め、製品のラインナップを増やしていきたいと思えます」と船谷さんは意気込みます。開発後、引き合いが多数あり、新たな設備投資も計画中です。



「NEQAS®OCEAN」のペレット